

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム「ゆうゆう」
訪問調査日	平成 21 年 9 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム ゆうゆう
所在地	鹿児島県霧島市隼人町姫城一丁目276番地 (電話) 0995-44-6180

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年9月25日
評価確定日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(21年 8月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 30日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
常勤	14 人
非常勤	4 人
常勤換算	16.3人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建て、1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000~36000 円	水道光熱費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	医療法人松城会 隼人温泉病院 米重歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームゆうゆうは、日当山温泉郷の中に位置し、温泉を楽しめるホームである。管理者は、グループホーム協議会の始良伊佐地区の副会長・霧島ブロック長を任せられ、当事業所だけでなく38の事業所との連携を強化して、理想とするグループホーム作りに取り組んでいる。ゆうゆう便り「地域交流版」を発行し、地域の回覧板で回覧し、事業所の行事の様子・出来事を記載して地元の方々も毎回楽しみにしている。職員は「あたり前の積み重ねが特別になる」の精神で、利用者がその日一日を自分らしく精一杯生きられるように、支援している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価は、職員・家族・運営推進会議で報告している。改善点について話し合い、災害対策については地域や自治体との連携が強化されつつあるが、「馴染みながらのサービスの利用」「重度化や終末期に向けた方針の共有」については継続的な取り組みには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年度の自己評価は、職員全員に白紙を渡し、記入してもらい、話し合いを行いまとめあげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月毎に霧島市職員・包括支援センター職員・自治会長・老人会会長・民生委員の参加で開催されている。地域行事(七夕祭り・餅つき大会)への参加・ゆうゆう便りの回覧の実施など、地元の人々との交流に役立ちサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者・職員は、面会時に、家族とのコミュニケーションを密にとり意見・相談を受けている。家族からの意見は職員で話し合い、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板で地域の行事の情報を得ている。学校の行事への参加・幼稚園児やボランティアの訪問・中学校の体験学習の受け入れなど地元の人々との交流に努めている。回覧板で「ゆうゆう便り 地域交流版」を回覧し、地元の人々への啓発に努め、事業所が地域の一員となるように努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年度から開設当時の理念に、「地域で健やかに暮らせる環境」と付け加え、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をホール・事務所に掲げ、職員は利用者の具体的なケアについて話し合う担当者会議等で、理念に結びつけて考え、ケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板で地域の行事の情報を得ている。学校の行事への参加・幼稚園児やボランティアの訪問・中学校の体験学習の受け入れなど地元の人々との交流に努めている。回覧板で「ゆうゆう便り 地域交流版」を回覧し、地元の人々への啓発に努め、事業所が地域の一員となるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度の自己評価は、職員全員に白紙を渡し、記入してもらい、話し合いを行いまとめあげている。改善点について話し合い、災害対策については地域や自治体との連携が強化されつつあるが、「馴染みながらのサービスの利用」「重度化や終末期に向けた方針の共有」については継続的な取り組みがなされていない。	○	今年度の自己評価・外部評価を活かし、改善点について継続して取り組み、記録に残すことを勧めます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に霧島市職員・包括支援センター職員・自治会長・老人会会長・民生委員の参加で開催されている。地域行事(七夕祭り・餅つき大会)への参加・ゆうゆう便りの回覧の実施など、地元の人々との交流に役立ちサービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホーム「ゆうゆう」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市職員から手続きなどのアドバイスをもらったり、市が開催する催しで、管理者が講演するなど、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ゆうゆう便り家族版」を発行し、利用者の事業所での行事の様子、職員の異動など報告している。個人の健康面・事業所での生活状況などは、家族の面会時に報告している。遠方の家族には、ゆうゆう便りの郵送や利用者の写真をポストカードにして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は、面会時に、家族とのコミュニケーションを密にとり意見・相談を受けている。家族からの意見は職員で話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者のダメージを防ぐ配慮を母体法人も理解しており、職員を固定する配慮をしている。ユニット間の異動は利用者全員を知る意味で行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内研修・外部研修を受ける機会があり、ミーティングで発表して研修内容を共有している。	○	事業所内研修の年間計画・新人教育計画を作られ、研修実施記録を残し、全職員が研修内容を周知し、サービスの質の向上に取り組むことを希望します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの職員交流研修を実施して、申し送りの仕方・記録の仕方・物品の管理の仕方・水分摂取量のチェックの仕方など改善し、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家族だけの見学がほとんどで利用者本人の見学が少なく、管理者が病院・施設に出かけ、利用者本人の情報収集を行い、サービスを開始している。	○	サービスを利用の主体は、利用者本人であり、スムーズな利用のためにも本人の安心と納得の確保が不可欠であることを家族に説明し、本人と家族等にあった個別の利用開始の調整を行っていくことを期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から季節ごとの行事・料理の仕方など学びながら一緒に喜怒哀楽を共にして、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の言葉・仕草・表情の変化に気付くように心がけ思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師・看護師・介護職員・ケアマネの参加による担当者会議を開催し、それぞれの気付きを話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期6ヶ月・短期3ヶ月の期間で見直しをしている。対応できない変化が生じた場合は、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。		

鹿児島県 グループホーム「ゆうゆう」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎週のかかりつけ医の往診で、負担となる受診や入院を回避している。看護師による医療処置を受けながらの生活の支援の継続が出来る。家族の要望に応じて病院受診の送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が担当者会議に参加して介護計画作成に関わったり、専門外の病院への紹介をするなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の方向性について家族に説明をしているが、明文化していない。	○	入居契約時、家族に、利用者が重度化した場合の事業所としての方針を明確にされ、重度化に伴う意思確認書を作成し、同意を得ることを勧めます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する方針・利用目的を作成しており、家族に利用目的について説明し文書を渡している。プライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしないように、指導している。書類は、事務所で保管管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の力量に応じて自信が持てるように関わり合い、一人ひとりのペースに合わせて、希望に添った支援に努めている。		

鹿児島県 グループホーム「ゆうゆう」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立に取り入れている。回転すし・そうめん流しなど外食したり、ピザの出前を取ったりと食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉利用の入浴であり、週三回の予定をしているが、変更・毎日の入浴も可能である。入浴時間をゆっくりとり楽しめるように支援している。入浴を拒否する方には、声かけ・タイミングの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事・洗濯物たたみ・草取り・庭掃除と生活歴や力を活かした役割をしてもらい、貼り絵作りに取り組み霧島市の健康福祉まつりに出品している。年3回ほど桜島・水族館・高千穂牧場・垂水などバスを使って旅行を楽しんでいる。今年は霧島へ一泊旅行を計画し利用者は楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの天降川堤の散歩・近隣の温泉の足湯に入りに行ったり、敷地内でレクリエーション・食事・お茶のみを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、消灯まで鍵はかけていない。近所の方々にも見守りや声かけをしてもらえるよう協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所で、年間に防火避難訓練2回・夜間避難訓練5回を行っている。10月23日に、地域の方々の協力を頂き避難訓練を予定している。		

鹿児島県 グループホーム「ゆうゆう」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事摂取量のチェックがなされている。利用者の状態に応じてミキサー食や生活習慣病に対しては、法人の管理栄養士からの食事療法の指導をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花が飾られ水槽でグッピーが飼われている。日中は居間兼食堂で過ごされる方が多く、畳を敷いた空間とテレビの前にソファがあり、利用者の過ごしたい場所でくつろげる工夫をしている。2号館のホールには、仏壇があり利用者の心のよりどころになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台・クローゼット・整理ダンス・ベッドが備え付けてある。クローゼットが大きいため外に出されているものも少なくすっきりした部屋になっているが、家族の写真・椅子・テレビ・位牌を持ち込まれ、それぞれ個性のある部屋になっている。		